

議 長	会議を再開します。 (午前11時20分)
々	これより、中平議員の一般質問を行います。3番中平議員。
3番 中平議員	<p>皆さんおはようございます。3番議員中平でございます。4月の町議会選挙におきまして再び議会に送り出していただきました。私事でございますが、4月の5日に、肺気胸という病気に冒されました。緊急処置の末、6日間入院し、4月10日には退院することができ、4月16日の告示の選挙に間に合うことが出来ました。おかげさまで当選もさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいでございます。入院中は健康であることの大切さを痛感いたしました。今後はこの経験を踏まえ、健康に留意しながら、一心に議会活動に取り組んでいく所存ですので、今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、通告書に従って、1項目の質問をいたします。「有害鳥獣対策の取組の現状と今後の施策について問う」であります。有害鳥獣対策については、例年どおりの対策である捕獲にあわせ、被害防止施設整備補助金による対策が行われておりますが、令和4年度から、ICTを活用した有害鳥獣対策可能性調査事業が行われております。この事業について、取り組みの現状と成果について問います。また、サル、イノシシのほか、近年は、シカの日撃も多く捕獲頭数も増えております。シカへの対策が急務であると考えますが、今後の取り組みについて本町の考えを問います。有害鳥獣対策については、過去にも何回か一般質問に取上げましたが、今回また新しい事業に取り組まれているということ踏まえて、改めて質問いたします。よろしく願いいたします。</p>
議 長	それでは、中平議員の質問、「有害鳥獣対策の取り組みの現状と今後の施策について問う」に対する答弁を求めます。番外名原産業振興課長。
番外名原 産業振興課長	<p>中平議員の「有害鳥獣対策の取り組みの現状と今後の施策について問う」にお答えいたします。本町におきましては、鳥獣被害とりわけサルによる被害が深刻化していることから、実効性のある対策に向けて新たな手法を検討してまいりました。議員ご指摘のとおり、令和4年度よりICT、情報通信技術を活用した有害鳥獣対策可能性調査事業に取り組み、兵庫県丹波篠山市や三重県における地域主体の有害獣害対策で実績を上げておられる、NPO法人里地里山問題研究所に業務委託して、サルの生息状況調査を実施し、町内の群れの分布を把握いたしました。令和5年度は、国の被害防止対策総合交付金を活用し、調査結果をもとに2つのモデル地域を選定し、さらにGPS発信機を装着、群の詳細な行動範囲のデータ収集を行いました。また、地域の方を対象に、サル用電気柵の設置方法や、GPS受信機やアンテナを活用した追い払いの研修も行っております。3年目となる今年度は、蓄積され</p>

番外名原産業振興課長 た行動軌跡から効果的な場所にICT大型捕獲檻を設置し、サル の 個 体 数 の 削 減 に 努 め て ま い り ま す 。 あ わ せ て 猿 の 位 置 情 報 共 有 シ ス テ ム を 導 入 し 、 地 域 主 体 の 追 い 払 い を 推 進 し て い き た い と 考 え て お り ま す 。 こ れ ま で の 事 業 の 成 果 に つ き ま し て は 、 取 り 組 み を 進 め て い る 途 中 で あ り ま す の で 、 数 値 等 で お 示 し す る も の は ご ざ い ま せ ン が 、 本 町 の サ ル の 群 や 行 動 範 囲 を 見 え る 化 し た こ と に よ り 、 よ り 具 体 的 な 対 策 の 検 討 が 進 ん で お り 、 報 告 会 等 を 通 じ 地 域 の 方 と 情 報 共 有 す る こ と に よ り 、 鳥 獣 被 害 対 策 へ の 理 解 も 深 ま っ て い る と 感 じ て お り ま す 。 鳥 獣 対 策 に は 、 捕 獲 ・ 防 御 ・ 環 境 管 理 が 肝 要 で あ る こ と か ら 、 研 修 会 の 開 催 等 を 通 じ 、 地 域 の 皆 様 と と も に 引 き 続 き 取 り 組 ん で ま い り た い と 考 え て お り ま す 。 な お 、 シ カ 対 策 に つ き ま し て は 、 本 町 で の 捕 獲 頭 数 が 、 令 和 4 年 度 の 1 7 頭 に 対 し 、 令 和 5 年 度 が 2 頭 と 減 少 し て は お り ま す が 、 近 隣 で は 目 撃 情 報 や 被 害 が 増 え つ つ あ る と い う 話 も 聞 い て お り 、 対 策 の 必 要 性 は 認 識 し て い る と こ ろ で す 。 今 後 は 県 や 隣 接 市 町 、 ま た 林 業 経 営 体 等 々 連 携 を 図 り 、 必 要 な 対 策 を 講 じ て ま い り た い と 考 え て お り ま す 。

議 長 3 番 中 平 議 員 。

3 番 中 平 議 員 本 日 は 冒 頭 の 通 告 書 で 、 I C T を 活 用 し た 有 害 鳥 獣 対 策 可 能 性 事 業 に つ い て 問 う こ と に し て お り ま す が 、 こ れ は 後 ほど 触 れ る こ と に し ま し て 、 ま ず で す ね 、 令 和 4 年 度 に 作 成 さ れ て お り ま す 川 本 町 鳥 獣 被 害 防 止 計 画 と い う の が あ り ま す 。 こ れ が 今 、 作 成 さ れ て か ら 2 年 経 っ て お り ま す が 、 こ の 中 身 に つ い て ち ょ っ と 触 れ て 、 こ の 防 止 計 画 が ど の よ う に 対 策 に 活 か さ れ て い る の か を ち ょ っ と お 聞 き し た い と い い ま す 。 ま ず サ ル ・ イ ノ シ シ ・ シ カ 等 の 生 息 状 況 に つ い て お 聞 き し た い と い い ま す が 、 サ ル の 群 の 調 査 は も ち ろ ん さ れ て お り ま す が 、 生 息 の 調 査 と し て は ど の よ う な 状 況 を 把 握 さ れ て お り ま す か 。

議 長 番 外 名 原 産 業 振 興 課 長 。

番 外 名 原 産 業 振 興 課 長 生 息 調 査 に つ き ま し て は 当 然 群 れ の 状 況 を 把 握 す る 中 で 、 令 和 4 年 度 か ら 実 施 調 査 を 行 っ て お り ま す け れ ど も 、 川 本 町 内 に お け る 群 れ 数 が で す ね 9 群 れ あ る と い う こ と で 、 大 体 全 体 の 頭 数 で 言 い ま す と 5 0 0 近 い で す ね 群 が い る の で は な い か と い う ふう に 推 測 し て い る と こ ろ で ご ざ い ま す 。 今 具 体 に で す ね 2 つ の モ デ ル 地 域 の ほう を 選 定 し て や っ て お り ま し て 、 さ ら に G P S 等 発 信 器 付 け て お り ま す の で 、 細 か な サ ル の 頭 数 の ほう が 確 認 で き る も の と 考 え て お り ま す 。

議 長 3 番 中 平 議 員 。

3 番 中 平 議 員 ニ ホ ン ザ ル と シ カ に 関 し て は 、 ど の よ う な 把 握 を さ れ て ま す で し ょ う か 。

議 長	番外名原産業振興課長。
番外名原産業振興課長	シカと（「イノシシです」の声）。まずイノシシにつきましては先ほどの先ほど言ってないですかね、イノシシにつきましては、令和5年度実績で言いますと92頭ということで、前年、令和4年度は286頭の駆除数だったんですけれども、194の減少ということで、これ要因といたしましては豚熱のほうが上がられておりまして、加えて被害防止柵の設置のほうも、令和5年度につきましては少なかったというのが現状でございます。シカにつきましては、なかなかシカにつきましては令和4年度の17頭の駆除実績に対しまして、令和5年度は2頭ということで、ちょっと減ってるようにはみえますけれども、これもやはり関連性といたしましては豚熱の絡みで捕獲が少なかったのではないかというふうに感じております。というところでは先ほど言いましたように、シカについてはですね、実際に調査のほうは行っておりませんが、町内で言いますと邑智郡森林組合がございまして、そういったところと生息域の情報につきましては連携して行っていく必要があるというふうに感じております。
議 長	3番中平議員。
3番 中平議員	この計画の中にあります被害状況というものは、どの程度把握されておりますか。それぞれについて。
議 長	番外名原産業振興課長。
番外名原産業振興課長	被害状況につきましては、農業共済さんが持つておられる保険ベースでのですね、データしかないんですけれども、実際それだけではちょっと推し量れないものがございまして、いろいろな各地域のですね情報をかなり集落のほうで聞き込んで取りまとめる必要があるというふうに感じておりますので、なかなか数値的には出にくいのかなというふうには思っております。シカにつきましては先ほども言いましたように、森林組合のほうから、大きく言えばですね情報のほうを提供いただいて、被害状況のほう確認しておく。また猟友会のほうからも情報を提供いただいておりますので、そういったところで確認のほうを行っている現状でございます。
議 長	3番中平議員。
3番 中平議員	一つはこの対策の中で駆除の実績を先ほどお聞きしました。令和3年度がサルが52頭、4年度が91頭。イノシシは令和3年度194頭、4年度が286頭と。今年度は、昨年度は、やっぱり豚熱の関係で減っているというのは聞いておりました。それでですね、このひとつお聞きしたいのが、サル、

3番
中平議員 イノシシについては従来どおりですが、シカについては、令和元年度から駆除対象になっております。駆除の捕獲奨励金というのが、1頭当たり25,000円という設定になっておりますが、この金額はどういう考えのもとに決められたのでしょうか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産
業振興課長 すいませんちょっと金額の設定までちょっと私もちょっとすいません、把握しておりませんで申し訳ないんですけども、個体数が大きいので、駆除にもなかなか手間がかかるということで若干ほかのサル、イノシシ等よりもですね奨励金のほうが大きくなってんじゃないかというふうに考えております。

議 長 3番中平議員。

3番
中平議員 シカの捕獲奨励金については、邑南町が1頭当たり7,000円、美郷町が10,000円というふうに聞いております。私は今の頭数からいけば、このぐらいの金額であっても、どんどん駆除が進めば問題ないかなと思えますので、将来数が爆発的に増えるようなことがあれば、また検討をしていただきたいなと思えます。それから続きまして被害防止対策の課題といたしまして、担い手不足に伴う駆除班員の確保というものが問題となっておりますが、駆除班員と猟友会というのは同じですか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産
業振興課長 猟友会の中から駆除班員のほうを出していただいているのが現状でございます。

議 長 3番中平議員。

3番
中平議員 ということは川本町鳥獣被害対策実施隊というのも、その駆除班員による駆除班が役割を担うこととなっておりますので、いわゆる、猟友会がほとんど担っているという認識で良いと思えます。それでですけども、今現在、川本町の猟友会は平均年齢が69歳というふうに聞いております。今後ですね新規の狩猟免許取得者がどんどん現れないと、この駆除に支障が出るというふうに思うわけですが、その対策についてはどう考えておられますか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産 議員ご指摘のように、担い手の不足については私のどものほうも認識して

業振興課長 るところでございます。担い手の方若い方ですね、できるだけやっていただきたいという思いで補助金の支援のほうも行っているのが現状でございますけれども、なかなか思う通りにいかないところが現状でございます。駆除を将来的にどうするかっていうところを含めていうと、やはり広域的に考えていく必要もございまして、外部からの人材を検討するってことも将来的には必要になってくるのかなというふうに考えております。

議 長 3 番中平議員。

3 番 中平議員 猟友会にどんどん入っていただきたいという気持ちは多分一緒だと思いますが、ちょっと広報をもっとされたらどうかなという思いがあります。他の自治体なんかでは鳥獣対策最前線というような銘打った特集記事を、広報に掲載されて、これなんか7ページぐらい出しておられたようですが、やっぱりその目を引く資料の魅力であるとか、獲った後の楽しみであるとか、あるいはそういった生活スタイルですね、いろいろと紹介されておるようなところもあるようです。例えばですけど若者をターゲットにするのであれば、半農半Xならぬ半猟半Xのような、午前は狩猟に行って午後は農業をすとか。今日が農業で明日が狩猟であるとかそういった新しい生活スタイルの紹介。また猟友会さんの会員不足っていうのももうはっきりありますので、逆にそういうところに入っていただく方としては、狩猟をやりながらいろんなことに関わるという、先ほどの関連はありますが地域おこし協力隊、こういった人の募集も考えられるんじゃないかと思います。それから1つの案といたしましては、役場の職員さんがですね、狩猟免許を取得して、業務を行いながら、要請があれば出かけていくというようなことも、ひとつはこの庁舎内の働き方改革という面から見ればあるのではないかと。もちろん狩猟自体に興味がある人が全くおられんような話であれば、それが実現するわけじゃありませんが、邑南町さんの今の推進委員さんは役場のOBの方で、そのままその役をやっておられます。役場の職員さんなんかは狩猟免許を取得した時の業務の中での狩猟というのであれば、やはりこれは庁舎内の働き方改革の中で対応するしかないのかなと思っております。それからですね、ちょっと話は変わりますが被害防止施設設置対策ですね、これをずっとやっておられますが、電気柵や防護柵の設置に対しての資材経費の補助や設置研修会を実施とありましたが、令和5年度はどのような研修会をされておりますか、お聞きします。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 令和5年度につきましては被害防止柵、これは正しい電柵の効果的な設置方法ということで11月のほうに研修会のほうへ実施しております。地域は田窪のほうで実証圃といいますか圃場をお借りしまして、開催のほうさせて

<p>番外名原産 業振興課長 議 長</p>	<p>いただいております。 3 番中平議員。</p>
<p>3 番 中平議員</p>	<p>追い払い対策としての動物駆除用煙火を使用する集落ぐるみの追い払いを実施するような講習会も実施とありますが、これの令和 5 年度の実績はどうですか。</p>
<p>議 長</p>	<p>番外名原産業振興課長。</p>
<p>番外名原産 業振興課長</p>	<p>今おっしゃいました追い払いにつきましては、こちらのほうで三原地域をモデル地域に選定しておりまして、「NPO 法人さともん」さんにご指導いただきながら、GPS を装着した群れの個体をですねアンテナで追いながらですね、実際に群れが発見出来ますので、その群れを追いながら追い払っていくというような取り組みをして、あと戻りまして意見交換といたしますか、実際にやっぱり群れの認識っていうのが、いろんな集落の方のズレがあったりしますので、そういったところのズレをですね、GPS のデータとかいろんな出没状況とかありますんでそういった意見交換をして、あそこに出るここに出るっていう行動域を確認したりというような研修を行っております。これ 2 月のほうに、今年の 2 月に行っております。</p>
<p>議 長</p>	<p>3 番中平議員。</p>
<p>3 番 中平議員</p>	<p>この計画の中にある設置対策の課題としてですね、サル防御へのモデル柵及びイノシシ防護のモデル柵の波及活動ということが挙げられておりました。この波及活動というのが、今の三原でやられた分の中に入るんだと思いますが、美郷でですね最近紹介された簡易な防護柵の設置というのがございます。こういったものが専門の業者が開発をして美郷町でこの間講習会開かれたわけですが、こういう新しいものをもうすぐですね取り入れて、講習会を設置されたらどうかと思うんですが、それについてはどうお考えですか。</p>
<p>議 長</p>	<p>番外名原産業振興課長。</p>
<p>番外名原産 業振興課長</p>	<p>美郷町ともですね定期的に意見交換のほうを行っております、どういう取り組みされてるか当然、美郷町内には獣害のいろんなですね防護柵ですかそういったもののメーカーさんございますので、そういったところの一応新しい情報等も入れていただいて、これ良いんじゃないかということも、いろいろと提案されることもございますので、そういったところは積極的にですね、受入れていきたいというふうに考えております。</p>

議 長	3 番中平議員。
3 番 中平議員	私らの議会ですすね美郷町のほうで、サル・イノシシの生態を知れるような講習会を聴きまして、たいへん参考になったわけですが、こういった講習会もですすね少し検討されたらどうかなと思います。美郷町なんかでよく視察にお見えになりますが、地域ぐるみで対策を講じている現場とか、そういうところを会場にして講習を受けられるのは有効じゃないかと思いますので、ぜひ新年度ですすね、計画の中ではそういったことも頭に入れて、計画をしていただきたいなというふうに思っております。以前ですすね、他の方の一般質問の回答で、柵の見回りとか、放任果樹の見回りに集落支援員さんで獣害対策の専門員がおられたようですが、今はどうですか。
議 長	番外名原産業振興課長。
番外名原産 業振興課長	5 年度中は集落支援員、獣害対策の専門員がおりましたので、こちらのほうでいろいろと動いていただいておりますけれども、今年の 3 月末の方で退職いたしましたので、現在欠員のような状況ですので、今ちょっと募集の方はしておりますけれども、なかなか見合った人材がないというのが現状でございます。
議 長	3 番中平議員。
3 番 中平議員	続いてですけれども、先ほど支援員についてはちょうど他のことにあわせて触れたいと思います。川本町有害鳥獣被害対策協議会というのがつくられております。この協議会の開催されるようになるんだと思いますが、年何回ぐらの開催で、どういった内容の協議をされているのかをちょっとお聞きしたいと思います。
議 長	番外名原産業振興課長。
番外名原産 業振興課長	協議会につきましては年 1 回程度の開催を見込んでおりまして、内容につきましては、先ほど言いました今 ICT の調査事業を進めておりますので、こういった事業の内容、あとひとつですすね国の交付金のほうを活用しておるという現状で、この協議会の設立が一応前提条件になっておりますので、そういったところで交付金の活用をどういうふうにしていくかというところの事業内容の説明とあわせて、やってるような現状でございます。
議 長	3 番中平議員。
3 番	もう少し活発な議論を交わしていただきたいというのが気持ちでございます

中平議員 ます。その他の被害防止施策の実施体制に関する事項のところ、ちょっと目にしたわけですが、川本町の自治会連合会と連携して、被害状況であるとか出没状況等の収集と蓄積を図る。自治会長会などの会合において情報交換する場を設け、情報の共有化と意識の高揚を図る。情報伝達・組織力にたけた自治会組織を活用することにより、研修会等への参加人員の確保が図られ、より効果的な事業実施が見込まれるとありますが、この連携についてはどのように図られておりますか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 自治会との連携についてでございますけれども、当然サルは各地域のほうから発せられるものでございますので、そういうところで対応いただいておりますけれども、なかなか組織的に取り組んでるかっていうとなかなかそういってないのが現状でございます。本町のほうもですね、できるだけ獣害対策の理解を深めていただくという趣旨で、まちづくり意見交換会のほうで、定期的に住民さん混じえてですね、先ほど議員おっしゃいましたけれども、例えば獣害の生態を知るってというような取り組みを美郷でされてるってこともありましたけれども、まちづくり意見交換会のほうでも、さともんさんに来ていただいたりして、そういったサルの生息の実態ですね、どういった習性があるかということも報告していただいておりますので、それは広く住民さんのほうに参加を募っておりますので、そういった呼び掛けを本町も積極的に行ってですね、広く知っていただく機会をつくっていければなというふうに考えております。

議 長 3番中平議員。

3番中平議員 今のモデル地区は田窪ということで、田窪の自治会さんとは多分そういったお話をされながら進めておられるかもわかりませんが、私は因原地区でございますが、そういった話を余り聞いたことがないものでして、各町内全体でございますね、そういった自治会の組織を使うのであれば、もうちょっと幅広くですね集まって説明するなり、とにかくこの獣害対策は、捕獲することももちろん、それから追い払いもそうですが、例えば放任果樹の撤去であるとか、耕作放棄地のほうの問題とか幅広く問題がありますので、そこのへん辺りを自治会のほうと相談されて。各自治会がですね違うと思うんですね、その状況が。そういうところも踏まえながらいろいろ進めていただきたいと思います。続きましてですけど、令和4年度から始まりましたICTを活用した有害鳥獣対策可能性調査事業についてでございます。令和4年度は、ICTを活用した有害鳥獣サル対策の可能性を実証するというこにあたって、いろいろ調査をするということになってまして、令和4年度が調査する。

3番
中平議員 令和5年度は更にモデル地区を選定してGPSの装着をやられとるということでありまして、今、三原の田窪地区ということであるというふうに聞いております。確実に農地を守る防護柵であるとか効果的な追い払いを普及というふうにICTの分の中の内容に書いてありましたけれども、住民主体の被害対策ということに関してのイメージはどのようなものですか。

議長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 住民主体の対策というお尋ねでございましたけれども、当然サル対策につきましてはやはり集落で取り組んでいく必要があるというところで、今まで取り組んできた現状がございます。生息状況の把握とか、個体数の調整ですとか、住民全体の被害対策とか、いろんな3本立てで一応やっておりますので、一応バランスよくといいますか、ちょっと個体数の削減というところに重点が置きがちに見えますけれども、先ほど議員ご指摘いただいておりますけれども集落に入り込んでですね、いろいろと普及啓発を図っていく必要があるかなというふうに考えております。

議長 3番中平議員。

3番
中平議員 先ほどのICTを活用した事業ですけれども、令和6年度は、対象群の個体数を把握し、効率的に捕獲ができる場所を選定、ICT大型捕獲檻を設置とありますが、具体的にどこへ設置をして、いつ頃この捕獲を実施されるのか、予定がありましたらお願いします。

議長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 大型捕獲檻の設置につきましては、実際に今どこに置くかっていうところの協議のほうを進めているところです。当然そのGPSデータに基づいたですね、効果的な捕獲の設置場所をですね選定して、効率的、計画的にサルの捕獲を行っていく必要があると思います。ひとつ一番効果的に捕獲するにはですね、時期で言えばやっぱ冬の餌のない時期に行うのが効果的であるというふうに聞いておりますので、冬場の間ですね餌のない時期に、いちばん効果的に獲れる場所に設置して捕獲するというようなところになるかなというふうに考えております。

議長 3番中平議員。

3番
中平議員 分かりました。もうひとつですね、ICTサル情報配信システムというものを利用されるというふうに計画がありますが、どのように利用される、ちょっと具体的にイメージが欲しいんですけども。

議 長	番外名原産業振興課長。
番外名原産業振興課長	今のサル位置情報システムのお尋ねがございましたけれども、今GPSをですねサルに付けておりますので、近づけばスマートフォンを通して出没状況がくるというようなことで聞いております。それによってですね、いちいち連絡を取り合ったりというのがないような、一斉に集落の方に出没情報が共有されて、追払い体制が速やかにできるというふうなシステムだというふうに聞いております。
議 長	3 番中平議員。
3 番 中平議員	そういう便利なものが普及するということは大変いいことだと思いますが、その追払い体制というものが、スマホで受け取った方の周りです、整ってないと出たのが分かったぐらいのことしかないので、やはりそこはこれは、我々のスマホにも入ってくるわけですか。
議 長	番外名原産業振興課長。
番外名原産業振興課長	今モデル地域を選定しての取り組みを今取りあえず行っておりますので、取りあえずその辺りの集落の方を、取りあえずは限定しての取り組みになるかなというふうに思っております。
議 長	3 番中平議員。
3 番 中平議員	ということは今はモデル集落で三原の方々が普段から追払いをやっている方に情報が届いて、速やかに追払いができるという状況というふうに理解しました。上手くこれが連携ができれば、他の地域でも同じようなことができるように、ぜひ進めていただきたいと思います。続きましてシカの対策でございますが、シカに対しましては広島県側から侵入して、令和元年度から捕獲対象となって年々増えておりますが、昨年の捕獲頭数が少なかったというのは最初に説明があったようにイノシシの豚熱の関係もありますが、実際には全体的には邑智郡全体で大変に増えております。川本も恐らく調査はしてないわけですが、かなり増えていると思います。ちょっと全国でのベースのご紹介ですけども、令和4年度の野生鳥獣による被害額156億円のうち、シカによるものが65億円となっております。お隣広島から入ってきたわけですが、広島県では2020年に5,299万円。2021年度は4,773万円というような被害額が報告されております。私も以前、現役で勤めておった時にシカの研修に行きまして、シカの被害がちょっと悩まされておりました兵庫県の方へ視察に行き、広い畑に餌付けをしながら、上からネットを落として捕獲をするというような現場を見てきたわけですが、

3番
中平議員

今そこまで対策を取らなければいけないようなことになると大変な経費が、かかるわけですし、川本は今被害があんまり確認されていませんけども、邑智郡全体では、例えば邑南町の捕獲数は令和2年で222頭、令和3年364頭、これで捕獲の計画によりますと令和6年度は500頭というような計画が上がっております、もう身近に迫っているというふうに思っていたきたいと。今の段階で捕獲に力入れないことには、将来被害が拡大するというのもう目に見えておるところでございます。これを踏まえてですけども、美郷町さんの方で、邑智郡森林組合とタイガー株式会社と美郷バレー協定を締結されております。これはシカ対策だけに限らず林業振興を通じた地域振興の包括的協定となっております。美郷町さんの担当者の考えとしては、川本町・邑南町共にこの協定を理解していただいて、協定に参画して一緒になって有害鳥獣対策に取り組みたいという気持ちを聞いております。この提案について耳に入っていることがありましたら、お聞きしたいと思います。

議 長

番外名原産業振興課長。

番外名原産
業振興課長

美郷町さんがですね、シカ対策で森林組合さんですとか美郷町内の事業所でありますタイガーさんと連携してですね、シカ対策を講じていくということは新聞報道でもありますし、直接先ほど美郷町で定期的に意見交換してると言いましたけども、その中での話でも出てきております。当然タイガーさんも将来的には担い手不足っていうところは感じておられますので、いろいろと各町の方のシカ対策に支援していきたいというような思いも、直接私も社長の方に聞いておりますので、そういった連携の方であれば、将来的にはする必要が出てくるのかなというふうに思っております。ただ一方で地域のいろんな実情もございますので、当面はですね森林組合さんとそういった生息状況の情報を得ながらですね、シカ対策の方をシカについては先ほどの議員おっしゃいましたように爆発的に増えていくっていうのが実態もございますので、対策がですね遅れないように速やかにそういったところを注意しながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

議 長

3番中平議員。

3番
中平議員

今の時点では美郷・川本・邑南の三町ではございますが、この三町だけでも一体となって協議をして、有害鳥獣の被害が少しでも減る、減少させることができれば、町民にとって大変いいことだと思いますので、この提案については、ぜひ検討をお願いしたいと思います。先ほど来GPSの話はちょっと後にしましたが、最初に川本町の鳥獣被害防止計画の中からのいろいろ質問させていただきました。この被害防止計画の中身を見ると、大変このとおりにきちっとやれば、減るんじゃないかと思うぐらいの計画の中身になっております。何かこう少し力の入れ具合が足りないんじゃないかというふうにそ

3番
中平議員

それぞれの項目の中でも感じておりますので、ぜひ、そのことも心の中に置いていただきたいと思います。それから最後になりますが、産業振興課ですねこの業務自体が非常に幅広く多岐にわたっている。そこに向けて今年度から、音戯館の運営に関わる業務が教育課からも移管された、ということである。ちょっとマンパワーの方、私先ほどの支援員もいないというところのこともありますが、マンパワーの方の心配をしております。美郷町さんのような専門の部署をつくって、課までとは作れとは言いませんが、せめて対策室のようなものをですね作って専門の従事者が居られた方が、いろいろと対策が立てやすいんじゃないかと思えます。このことも含めてですけれども、町長の考えを伺いたいと思えます。

議長

番外野坂町長。

番外
野坂町長

議員ご指摘の町民の皆さん、取りわけ生産者の方ですね、そして町民の皆さんも御苦勞をおかけしております鳥獣対策を推進に向けて、いろいろとご提案いただいた中で最後にですね、これを着実に実のあるものにするためには、産業振興課の体制を考慮してはというご意見でありました。おっしゃいますようにですね、今の町の産業振興課、一次産業からですね三次産業まで見渡してるという組織であります。もちろん県に対しますと、一次産業農林水産部ですね、二次産業を含めて商工労働部ということ。或いはですね、県ではその中の鳥獣対策につきましてはですね、また特別の担当を設けてやっていると。近隣でもですね、両町ですねそれぞれですね必要な組織を設けてやっていると、そういうことを見渡しますとですね、おっしゃる点も理解できるところであります。一方でですね、逆に産業活動をですね、全般的に見渡して対策を打つという点ではですね、先ほど触れていただきました音戯館の本来望ましい姿に持っていきたいということでありました。そっちの方にちょっと話が行ってしまいますけど、指定管理者をですねその産業活動、付加価値を呼び込むという観点から見渡せる望ましい姿にやっとなったというところにあります。今現にですねご指摘ありますように専門員のほうがですね、欠員状態であります。募集は必要性はもちろん認めて募集をかけております。これはですね、なかなか今現在ちょっと適任者をですね、手を挙げていただく段階には入っておりませんが、議員ご提案いただきましたようなことも意識しながらですね、必要な方になっていただけるように、意識をしていきたいと思えます。今ですねこれいつぞやお話ししましたが、今ですね組織をですね分けてですね、これは産業振興課に限らずですね、私自身は今の組織体制と関連して申し上げておきますと、今の組織体制がですね私以下60人の正職員のもとで、町全体を見渡した時のほぼベストに近い編成であると私はこのように思っております。その中でですね必要な対策をいかにですね、この町らしくですね、展開していくかということが重要であると思えます。そのことでご質問いただいたことに、課長も答弁しましたけ

番外
野坂町長

どそのことを、さらに私なりに総括して申し上げるとすればですね、なかなかですね解決策を見出せない。基本的なですね追い払い、防御、捕獲ですね、この地道な取り組みを如何にまずやっていくかということですね。それとですね、やはりその解決策が見出せない場合にはよくですね戦術的にとられる手法としましてはですね、次の段階のですね、ここまでのプロセスを経なくても新しい技術を取り込むことで、次のですね一点が突破されて次に向かっていく可能性がないかという手法が一般的な課題解決にとられるわけで使われるわけですし、地道な活動を大切にしながらもですねこの度やってます情報通信技術を使った取り組みというのはですね、ひょっとするとそれが、職員がそのことを具体的に今まで言いませんでしたけど、何かそういう手法はないかといった時に、この兵庫県の里地里山問題研究所にですね職員が研修を受講しに行つて、この手法がひょっとしたら一点突破の可能性もあるかもしれないということで、今取り組んでるものでありますので、先ずはですねそういうのも地道にやる動きとですね、この一点突破、理想はそこから全面展開でありますけども、その可能性のあるですねその手法はですねやはり探し続けていきたいと思つます。そういう意味で地道な活動をしっかりと同時に情報をキャッチして、議員おっしゃいましたように先進のですね、やはり近隣でやってる事例がうちの皆さんの協力体制の中でその事例を持ってきたらですね、この川本町のこの鳥獣対策に歩んできた関係する皆さんがその手法ならうちでもいけるよというのをですね、やっぱり探し続けることであらうと思つます。そういうことをですね、現有は今の体制の中で、できる方法をとってやっていきたいと思つます。なかなかですね本当に今、町民の皆さんがいちばんお困りの中で、最もなかなか解決策を示し切れていない分野の筆頭がこの有害鳥獣対策であると思つます。ご意見を踏まえてできる対応をしっかり執つてまいりたいと考えております。

議 長

3番中平議員。

3番
中平議員

ご存じのように被害防止対策の大きな柱は、個体群の管理、防護柵等の設置による侵入防止、餌場、隠れ場を無くす生息環境の管理、これが必要ということになっております。これを踏まえまずと先ほど三原のほうで今いろいろサルの行動を把握するというようなことをされておるようですが、緩衝帯の設置なんかもですね前から言っておりますが、ちょっと検討をしていただきたいというところで、どこでもいいというわけにもいかないと思つますが今のよう個体群の管理をされておることになって、そのデータが出れば、ここへ緩衝帯を作るというようなこともおのずと見えてくるんじゃないかと思つれます。美郷の方でやっておられますけど、JR跡地の荒廃ですね、これが以前からも問題になって野生鳥獣の隠れ家になっておるというのも実態があります。この線路の草刈りなんかもですねJRにもっと働きかけてですね、民家に近い畑に近いようなところを重点的ですけども、働きか

3番
中平議員 けていただきたいと思います。様々な対策を組み合わせでですね、ぜひ町民に効果が目に見えるところまでのレベルに今後やっていただきたいと思います。そのことを期待して終わります。

議 長 以上で、「有害鳥獣対策の取り組みの現状と今後の施策について問う」の質問を終了します。

々 これをもちまして、中平議員の一般質問を終了します。

々 ここで暫時休憩します。再開は午後1時00分からとします。
(午後0時07分)